

令和4年 自己評価結果

【大項目評価結果】

評価は4段階 [4:適切 3:やや適切 2:やや不適切 1:不適切]

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
教育理念 目標	学校運営	教育活動	学生指導等	特別活動等	学修成果
3.36	3.20	3.32	3.31	2.20	3.19

(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
学生支援	教育環境	学生の 受入れ募集	財務	法令等の遵守	社会貢献 地域貢献
3.08	3.28	3.56	3.28	3.46	3.26

自己評価アンケート調査 2022年12月実施、教職員27名/32名 (回収率84.4%)

【小項目評価結果と大項目の詳細】

(1) 教育理念・目標 【3.36/4.0】

評価項目	平均
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか)	3.78
② 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は適切か。	3.52
③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3.22
④ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか。	2.96
⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	3.33

〔大項目の詳細〕

教育理念、教育目標は、ホームページで公開し、入学後に配布される学生便覧・シラバスにも記載され、新入生ガイダンスにて説明している。「地域医療への貢献」という教育理念のもと、建学の精神（教育目標）は、1.『謙虚な気持ち』と『感謝の心』を育てる、2. 助け合いやチームワークを基本とした医療福祉の精神を育てる、3. 医療人に必要な体力を養い、自立と忍耐を身につける、を掲げている。

また、石田学院長は、入学式での挨拶において、「学生生活を送るうえでの3つの心得」を述べている。

これは、教育目標をわかりやすく学生に伝えているものであり、1. 常に『謙虚な気持ち』と『感謝の心』を持って行動する。2. いつでもきちんとした挨拶をする。3. 在学中は、努力と辛抱の期間とする。としている。また、学科ごとにディプロマポリシー（卒業までに身につけるべき能力）、学年ごとの到達目標を掲げて、カリキュラム編成を行っている。この内容はシラバスに記載され説明されている。

令和4年は、令和2年から続くコロナ禍で、学生や保護者との対面での関りが少なくなっており、コミュニケーションは取りにくくなっている。また、年度初めに行っていた保護者説明会はコロナ禍で中止となっているため、保護者に向けて直接伝える場が無くなっている。ただ、最終的に全ての学生が国家試験合格を目標としているため、この点では目標の共有は出来ている。

(2) 学校運営 【3.20/4.0】

評価項目	平均
① 目的等に沿った指導方針が策定されているか。	3.33
② 指導方針に沿った事業計画が策定されているか。	3.19
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか。	3.04
④ 就業、給与に関する規程等は整備されているか。	2.96
⑤ 教務・事務等の組織整備等意思決定システムは整備されているか。	2.93
⑥ 業界や地域社会等に対する法令遵守がなされているか。	3.44
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3.59
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3.11

[大項目の詳細]

教育目標に沿った分野別指導方針（学業指導、個人適性指導、社会性指導、健康安全指導、進路指導）は、ホームページで公開し、入学後に配布される学生便覧に記載されている。年度ごとの事業計画は、学校のホームページで情報公開されている。

学校の運営組織は系統化されており、学校法人理事会・評議委員会、広報委員会、学生生活向上委員会、就職委員会、同窓会委員会、情報システム委員会、学校評価委員会、教育課程編成委員会、教職員の質向上を促す『和敬清寂』委員会に分かれて運営されている。また、月ごとに教務事務連絡会議、学科長委員長会議、学科会議を行い、教職員の意志統一・意思決定を行っている。ただ、会議が報告会になりやすく現場の意見を踏まえた検討会になりにくいこと、年度途中の会議で決定したことを周知することが課題として挙がっている。

年度初めには、教職員向けに昨年度の結果と本年度の目標を発表する業務報告会を設けている。また、コロナ禍で対面での開催が延期になっているが、本来は、医療法人社団和風会の業務報告会にも参加しており、本校の収支報告、事業計画を発表する機会がある。

就業規則等も整備されており、令和4年は各教職員が閲覧できるようにインターネット上にて提示された。11月～12月にかけて、すべての教職員と副学院長・事務長・教務部長による個別面談を実施し、個人の意見や相談を受ける機会が設けられている。

情報システム面では、令和4年に各教室のWi-Fi設備の整備を行った。また、教職員専用のポータル

サイトがあり、各種の会議予定、オンライン・オンデマンド授業管理、COVIT19 感染者・濃厚接触者状況、教員の遅番勤務予定、教室予約、学生の追試験・再試験管理、IT 機器・学生貸出し用パソコン予約、図書室蔵書検索などが可能となった。

(3) 教育活動 【3.32/4.0】

評価項目	平均
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3.44
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3.48
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	3.48
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	3.37
⑤ 関連分野の施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	3.41
⑥ 関連分野における実践的な職業教育（見学実習・評価実習・総合臨床実習等）が体系的に位置づけられているか。	3.59
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3.56
⑧ 職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3.41
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3.52
⑩ 資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3.59
⑪ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3.00
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（専任・非常勤含む）を確保する等マネジメントが行われているか。	2.81
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組みが行われているか。	3.00
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	2.78

[大項目の詳細]

学科ごとの教育課程(カリキュラム)ならびにディプロマポリシー(卒業までに身につけるべき能力)、学年ごとの到達目標は、ホームページ上で公開され、年度ごとに配布されるシラバスにも記載され、ガイダンス時に説明している。

職能団体である理学療法士協会・作業療法士協会・言語聴覚士協会・日本介護福祉士養成施設協会が主催する協議会等に積極的に参加し、学院内での情報共有、協会が意図するカリキュラム変更に合わせた内容の作成や見直しを行っている。教育課程編成委員会も開催し、病院のリハビリテーション責任者の意見も取り入れている。医療法人社団和風会と協力体制が出来ており、外部講師(PT・OT・ST)の起用も出来ている。

学校評価では、年度ごとに自己評価、学校関係者評価を行い、5年ごとに第三者評価(一般社団法人リハビリテーション教育評価機構)を行っている。学生に対しては、前期・後期定期試験終了後に、授業評

価アンケートを実施し、アンケート結果を各授業担当者へフィードバックしている。

医療法人社団和風会リハビリテーション部が開催している 6 年目以上研修 (PT・OT・ST) の一端を担い、実習施設の中核作りも行っている。理学療法学科・作業療法学科は、臨床実習指導者を養成するために、各協会連携のもと臨床実習指導者講習会を開催している。日本大学医学部解剖学教室へは週 1 回、PT・OT 学科から 1 名ずつ客員研究員として派遣し、医学の基礎である解剖学の研鑽を行っている。

コロナ禍により感染者増加により、対面授業がオンライン・オンデマンドの Web 授業になることがあった。臨床実習も現場のリスク管理により、学内での模擬実習になることもあった。また、学生も発熱や濃厚接触により公欠になることが多かった。教員は、不測の事態に対応せざるを得ないため、授業・実習・試験では重複した対応に陥り、業務量が増えている。

(4) 学生指導等 【3.31/4.0】

評価項目	平均
① 基本的な生活習慣の確立のため取り組みが行われているか。	3.11
② 学生の安全管理のための取り組み等 (傷害保険、カウンセリング、発達障がいのある学生等への支援等) が行われているか。	3.41
③ 学生・保護者からの相談体制が整備されているか。	3.15
④ 進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか。	3.56

〔大項目の詳細〕

基本的な生活習慣の確立のため、学生の欠席届等の提出を義務づけており、状況に応じ随時面談を実施している。コロナ禍での指導として、登校前に検温を行い google form で体温と体調の変化の報告を課している。学生の生活指導 (校内風紀) は学生生活向上委員会で行っている。

令和 4 年度から学生の体調面 (発達障害等) により、合理的配慮の申請が出来るようになった。早速、許可がおりて合理的配慮を受けている学生がいる。学生の精神面の相談は、臨床心理士/公認心理師の資格を持つ心理カウンセラーが常勤で対応できる環境である。そのため、退学率の減少につながっていると思われる。在校生だけでなく、卒業生のカウンセリングの受入れも行っている。

学生へはタマリハユーザアカウントが発行され、タマリハ Gmail が利用できる。教員へのメールアドレスも、学生へ開示しており、相談できる環境がある。また出席不良や成績不良の学生には、学生の了承を得て保護者に連絡をし、相談する環境を整えている。ご意見箱の設置もあり、学科担任だけでなく、相談する道筋は整備されている。

就職指導は、(株)リクルートに依頼して Web 講習会を行った。また、求人募集活動をしている実習施設に協力して頂き、オンライン説明会を行った。

(5) 特別活動等 【2.20/4.0】

評価項目	平均
① クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか。	2.26
② スポーツ大会、文化祭等を推進しているか。	2.15

〔大項目の詳細〕

令和4年は、引き続きコロナ禍のため、クラブ活動等の特別活動の奨励ができなかった。学生もそれが日常になっているため、特に希望も出てこない状況であった。また、恒例行事となっていた新入生親睦会・合宿、球技大会、タマリハ博覧会、3学科合同症例報告会等を行っていない。クラス間交流を図る意味では代替案の検討が必要と感じている。教員もコロナ禍で重複した授業進行に対応しているため、特別活動に取り組む時間がない。しかし、これが日常だと考えるとアフターコロナに移行することも必要である。感染対策を実施しながら行ったこととしては、マナー講座、悪徳犯罪被害防止講座、年金講座、租税講座（所得税、確定申告など）の開催があげられる。

(6) 学修成果 【3.19/4.0】

評価項目	平均
① 就職率の向上が図られているか。	3.59
② 資格取得率の向上が図られているか。	3.63
③ 退学率の低減が図られているか。	3.19
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	2.74
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	2.81

〔大項目の詳細〕

就職支援として、最終学年を対象に就職活動講座を開催している。マナー講座、履歴書の書き方指導、模擬面接などを行っている。求人情報はファイリングされた資料が図書室にて閲覧することが可能である。令和4年は、就職委員会が主導し、実習施設を中心に求人募集動画の視聴やZoomを活用したオンライン説明会を行った。母体の医療法人社団和風会からは法人リハビリテーション部長に学校に来て頂き、対面にて直接学生に就職の働きかけを行った。

2022年2月に行われた国家試験の合格率は、作業療法学科が93.3%（全国合格率80.5%）、理学療法学科が91.8%（全国合格率79.6%）、言語聴覚学科が78.2%（全国合格率75.0%）となった。3学科で全国合格率を上回る結果となった。各学科教員が総動員で学習指導に当たっている結果と思われる。

令和3年度（2022年/令和4年3月）も退学者の減少を掲げ、退学率6%であった。低い状況を維持できている。退学理由は、学力、病気、経済的理由となっている。

(7) 学生支援 【3.08/4.0】

評価項目	平均
① 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3.59
② 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3.26
③ 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	2.74
④ 学生の生活環境への支援は行われているか。	2.93
⑤ 保護者と適切に連携しているか。	3.11
⑥ 卒業生への支援体制はあるか。	2.85
⑦ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.15

⑧ 高等学校・大学等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。	3.04
--	------

〔大項目の詳細〕

学生への奨学金は、日本学生支援機構、東京都私学財団等の奨学金がある。また、高等教育の就学資金新制度（高等教育無償化）では、授業料等減免の対象校である。引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、経済的困難な状況に陥っている学生が学びを継続できるよう支援する「学生支援緊急給付金給付事業」の申請も行い、複数名の学生が支給された。

入試制度においては、入学金免除特別入試、学費後納制度、有資格者割引、兄弟姉妹・子女入学金減額制度などの減額制度の実施を行っている。

年度初めには、母体の医療法人社団和風会の協力のもと、学生の健康診断を行っている。臨床実習に行く前週には必ず PCR 検査を受け、陰性を確認することが通常となった。

学生生活を有意義に送るために外部キッチンカーの敷地内乗り入れ、インターネット環境整備、学生からの意見を入れる投書箱の設置を行っている。最終学年には、税の講座や就職説明会等を行っている。

卒業生への支援は、校友会（卒業生と教職員でつくる会）の企画で、研修会・勉強会を計画・実施した。

(8) 教育環境 【3.28/4.0】

評価項目	平均
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3.07
② 実習施設について十分な教育体制を整備しているか。	3.37
③ 防災に対する体制は整備されているか。	3.41

〔大項目の詳細〕

令和4年度は、介護福祉学科が開設されたため、南館303教室にてその講義が行われた。コロナ禍により、PTOTSTの臨床実習は一部の学生が、特別教室を使いながら学内実習が行われている。PTOTの臨床実習が終わってからは、学院ホール201（セミナー教室）、202（階段教室）で講義が行われている。使い慣れない教室のため、メリット・デメリットがあった。

PTOT 指定規則変更に伴う教育環境整備事業を引き続き行った。理学療法治療実習室整備事業では、徒手筋力計10台、体圧測定装置（全身用、座位用）、知覚テスター10セット、包帯法シミュレータ5セットを整備した。作業療法治療室整備事業では、ボッチャ用具4セット、七宝電気炉2台、障害者用パソコン3台、簡易自動車運転シミュレータ1式、普通車椅子10台、変則車椅子3種、上肢機能検査・知能検査・高次脳機能検査等の整備を行った。

全学科学年が揃っている11月に消防訓練を行った。南館、北館、学院ホールに授業が散らばる中で、全9クラス（約300名）が館内放送を合図に西館講堂に避難した。告知していたことと専任教員が誘導したことから、避難の時間は約6分で、十分機敏な訓練であった。

(9) 学生の受入れ募集 【3.56/4.0】

評価項目	平均
① 学生募集活動は、適正に行われているか。	3.67

② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3.52
③ 入学金・授業料等の学納金は妥当なものとなっているか。	3.48

〔大項目の詳細〕

令和4年4月に介護福祉学科が開設され、4学科での募集活動になった。各学科とも定員40名である。入学試験は、AO入試、外国人留学生入試、特別入試、推薦入試、一般入試から構成されている。いずれも併願制度を実施している。令和4年の高校生の指定校推薦入試は、10月22日(土)であった。学費サポートは、入学金20万円を免除する特別入試、早期受検割引、有資格者割引、兄弟姉妹・子女入学金減額制度、学費後納制度がある。

入試時期前には必ず実績のある高等学校の進路指導室、大学のキャリアセンターへ訪問し、募集要項とパンフレットに掲載された国家試験合格率・就職実績の説明を行っている。また、広報業者を介した高等学校での専門学校説明会へ出向し学校説明や模擬授業を行っている。多摩地区の高等学校進路指導の教員を対象とした多摩地区専修学校協議会の学校報告会にも参加している。外国人留学生は、日本語能力試験N2レベルの方を対象に、定員の2分の1以内で募集している。介護福祉学科は、日本語学校へも訪問し、募集活動を行っている。

体験会は、感染症対策（検温、消毒、アクリル板など）を行いながら、在校生の協力も仰ぎ、年13回開催した。職種の特徴を生かした模擬授業や、教員や在校生との相談コーナーを設けている。また、各学科とも個別見学会に対応し、言語聴覚学科・作業療法学科では、一般の方を対象に、タマリハセミナー(講座)を行った。

入学金・授業料は、近隣の養成校と比較しても適切なものとなっている。入学辞退が出た場合は、授業料を返納している。

(10) 財務 【3.28/4.0】

評価項目	平均
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3.19
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	3.19
③ 財務について会計監査が適正に行われているか。	3.33
④ 財務情報公開の体制整備はできているか。	3.41

〔大項目の詳細〕

母体は、医療法人社団和風会である。リハビリテーションの急性期（所沢中央病院）から回復期（多摩リハビリテーション病院、所沢リハビリテーション病院）、維持期（介護老人保健施設メディケア梅の園、介護老人保健施設メディケア・イースト、デイサービスセンターパーク、青梅市地域包括支援センター／在宅介護支援センターうめぞの、梅の園訪問看護居宅介護支援センター／訪問看護ステーション）、予防期（メディカルクリニック武蔵境）に対応している医療法人である。

学校法人和風会の会計年度の財務諸表ならびに監査役の見解や署名は、ホームページ上で情報公開されている。理事会・評議員会では、会計事務所の税理士から財務諸表（収支報告、予算）の説明があり、適切な財務体制で運営されている。また、年度初めに本校事務長から、教職員を対象に、前年度の業務報

告説明会を行い、財務諸表についても説明があった。

(11) 法令等の遵守 【3.46/4.0】

評価項目	平均
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.59
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3.33

[大項目の詳細]

法令および専修学校の設置基準、養成校指定規則を遵守し、適正な学校運営を行っている。基準や種々の申請で求められている情報はホームページ上で公開している。

個人情報保護に関して、教職員へは、入学試験判定会議等で用いた個人情報資料をシュレッターすることを徹底している。学生の成績管理は、教職員の ID とパスワードで管理されているインフォクリッパーで入力・出力され、基本的に個人情報が含まれる資料やデータは、学校の共有フォルダにて管理されている。万が一、個人情報を学外に持ち出す場合は、個人情報管理者である事務長に個人情報持出申請書を提出し、許可を得ることになっている。病院・施設での実習の際に、実習指導者向けに作成する個人プロフィールがあるが、実習終了後には回収することを行っている。

また、学生には、各職種に課せられている守秘義務の重要性を教育し、実習前には再度、デイリーノートやデータの取り扱い、匿名での記載方法の徹底を指導している。

(12) 社会貢献・地域貢献 【3.28/4.0】

評価項目	平均
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3.37
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	2.93
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。	3.59

[大項目の詳細]

地域の社会福祉協議会や自治体が主催する転倒予防講座、認知症予防講座、口腔ケア講座を積極的に受託している。また、東京都立羽村特別支援学校、東京都立多摩桜の丘学園にて外部専門家（教育支援員）の役割を作業療法士、理学療法士、言語聴覚士として、それぞれの教員が担っている。

本校を会場とした研修会としては、理学療法学科・作業療法学科において、各職能団体と連携し、臨床実習指導者講習会を開催した。介護福祉学科においても、一般の方・近隣の施設職員を対象とした介護職員初任者研修・実務者研修を行った。また、言語聴覚学科・作業療法学科は、職種の啓蒙活動の一環として一般の方向けに無料のタマリハセミナーを行っている。

コロナ禍で学校施設の貸出しは制限しているが、作業療法学科 2 年生の学生で、市民講座『いきいき健康講座』を青梅市役所で開催することができた。

令和 4 年は、言語聴覚学科において、東京都産業労働局が委託する長期高度人材育成コース（専門人材育成訓練、令和 5 年 1 月受講生募集）の申請を行い、訓練機関として認可されることになった。